

テーマ	数学教育現代化における教育課程の再構成原理とその過程（2）
発表者	蒔苗直道（筑波大学）、相田紘孝（東京大学）、成田慎之介（東京学芸大学）、佐藤英二（明治大学）、
趣旨及び概要	<p>数学教育現代化（以下、現代化）とは、1950年代末期から1970年代にかけて、数学や理科などの自然科学系の教科をはじめとした各分野の教科で内容の高度化が図られた時期に、数学教育において行われた教育改革を指す。現代化は欧米において端を発し、それらの影響を受けて日本でも推進された。また、数学教育史では行き過ぎた内容の高度化に対して否定的に捉えられる傾向があった。本研究課題では、こうした数学教育史上の特徴的な教育である現代化について、現代化を日本の数学教育に取り入れた経緯や、現代化の趣旨が指導内容や指導法において具体化された点とされなかった点に着目し、教育課程の構成原理やそれが考えられた過程を明らかにすることを目的とする。特に、世界的な現代化の潮流の中で、それらを日本の数学教育がどのように捉えて、どのように取り入れたのか、をリサーチクエスションとして、現代化の再評価を行う。</p>